

| | | | |
|----------|----|-----|----------|
| 学校 番号 | 23 | 学校名 | 更級農業高等学校 |
|----------|----|-----|----------|

平成 30 年度学校評議員活用状況報告書

第 2 回学校評議員会 【平成 31 年 2 月 18 日（月）実施】

1 実施概要（協議研究事項を含む）

- ・ 学校長挨拶
- ・ 学校からの報告（学校の現状等・スクールコンプライアンス・学校評価・生徒指導・進路指導・生徒会活動・農業教育）
- ・ 高校改革～夢に挑戦する学び～について
- ・ 意見交換

2 今回の実施に当たって工夫したこと

- ・ 意見交換の時間を増やすため、学校からの説明を簡略にするよう努めた。
- ・ 「夢に挑戦する学び」に関連して現在の動きと今後の予定について学校長から説明し、農業教育のあり方や本校の将来像についてご意見をうかがう時間を設けた。

3 今回話題になった事項で特徴的なものとその概要

- ・ 就職では求人数が多く、本年度も内定状況が良好とのことであるが、製造業への就職率が高い一方、農業関係は少ない状況である。例年、食品製造のコースで学んだ生徒が関連分野の食品製造業に進む場合が多いが、農業法人への就職は数名である。農業を営んでいる家庭の割合が 1 割程度であり、生徒が農業法人等への就職を希望しても保護者の理解を得ることが難しい場合もあるが、本校で学んだことを生かせる職種への就職がさらに増えるとよいと思われる。
- ・ 県内には中野市を例としてシャインマスカットなどの地域特産物の栽培で高い収入を得ているところもある。また、農業法人の中には土日を休みにして働きやすい環境を作っているところもあるが、そうした情報がなかなか伝わっていない。農業高校が農業の核となることで、農業がもっと盛んになるような取り組みが行われるとよいと思われる。
- ・ 収穫祭で生徒が一生懸命に取り組んでいる姿が印象的であった。総合技術高校のような方向性を検討していく場合、すでに設置されている高校においてどのような課題があるのか明らかになれば前に進めるのではないか。中学生で部活動に入らない生徒が増える中、農業をもっと大切にしたいという思いがある。生徒減が進む中で農業、工業に特化した教育を維持するためには 40 人学級ではなく 30 人学級などの検討も必要と考えられる。
- ・ 地域では少子高齢化が進み、山間地では高齢化率が 50%を超える状況にあり、医療現場では多死社会到来への対応が必要となっている。そのような中で、

地域の生活に目を向け、農業生産に携わる場合も、生活と一体化していくことが求められている。生徒の産業と生活への関心を一層高め、地域の生活を支えることのできる人材育成を目指していただきたい。

- ・ 1年生を中心に SNS 上でのトラブルが起こりがちとのことであるが、いじめに発展することのないよう指導していただきたい。更に、貴重品の管理については、生徒の自己管理のみならず、出入りの多い部室等においても施錠の徹底を行うなど盗難防止対策を講じていくことが必要である。

4 成果と課題（学校評議員会以外の活用状況を含む）

- ・ 総合技術高校など新たな学びの推進計画や再編・整備計画等の方針が打ち出される中で、生徒の状況や地域の期待を踏まえて、日々の授業や専門教育のあり方を含めて教育活動の諸側面において工夫・改善を行うことが求められる。
- ・ 本校教育内容のレベル維持・向上のため、生徒の学びに対する姿勢の改善を図ることが課題である。明確な目標を持ち、自ら主体的に学ぶ姿勢の確立を図るための新たな取り組みを進めていく必要がある。